

競技注意事項

1. 競技規則について

- (1) 本大会に適用する規則は、2023年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会規定である。
- (2) WAの競技規則 TR6 の改正と新たに「競技用靴に関する規程」が導入されたことに基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。【競技用靴・靴底の厚さに関する規定(TR5. 2)】

競技用靴・靴底厚さ表

種目	靴底最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を 含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含 む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは40mm。
競技場内で行う競歩	40mm	

*ただし、踵より前底部の靴底が厚いフィールド競技用シューズについては競技規則TR5.2を適用除外とする。

*その他詳細、WA承認靴リストについては、日本陸連ホームページを参照すること。

(3) イエローカード (以下、YC) について

- ①WA競技規則CR18.5の規定により、TR6、16.5、17.14、17.15.4、25.5、25.19、に違反があった競技者やリレーチームにYCを提示し警告を与える。この場合他の種目との合算は無く、種目ごとに累積し、種目ごとにリセットする。
- ②同一種目で2回のYCの提示を受けた競技者は、当該種目を失格とする。ただし、それ以後の他の種目の出場は可能である。YCを提示の累積は、当該種目のみに適用する。

2. 招集について

(1) 招集所は、メインスタンド下の雨天走路に設ける。

(2) 手順

- ①招集開始時刻に競技者係の点呼を受ける。トラック種目出場者は、腰ナンバーを右腰のやや後方につけておくこと(腰ナンバーは大会側で用意する)。招集時には、アスリートビブス(各自の登録番号)とスパイク・シューズの確認を受ける。競歩競技においては別アスリートビブスを使用することがあるが、その際は、招集時に自分のアスリートビブスを競技者係に示し、別アスリートビブスを受け取ること。
- ②点呼の代理は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに本人が京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「2種目同時出場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。提出後は第1種目の招集時にその旨を競技者係に告げ、招集を受けることができない種目の点呼(アスリートビブス・腰ナンバー・シ

ューズ)を同時に受けておくこと。その場合に限り、招集時刻の点呼に代理人を認める。また、競技については本人がフィールド審判に申し出て、トラックの方を先に行うこと。

(3) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場する意志がないものとみなし処理する。

(4) 招集完了時刻は下記の通りとする。なお、種目別の招集開始時刻・完了時刻については、プログラムの競技日程欄に記載されている。

種目	予選		準決勝		決勝	
	開始時刻	完了時刻	開始時刻	完了時刻	開始時刻	完了時刻
トラック	30 分前	20 分前	25 分前	15 分前	25 分前	15 分前
フィールド	50 分前	40 分前	/		50 分前	40 分前
棒高跳	/		/		90 分前	80 分前

(5) リレー種目

① リレー種目のオーダー用紙は、受付時に手渡しする。リレーメンバー以外から起用する場合は、必要事項を忘れずに記入すること。選手変更の有無にかかわらず第1組の一次招集完了時刻の60分前までに競技者係(招集所)に提出すること。オーダー用紙の提出がない場合は、出場する意志がないものとみなし処理する(オーダー用紙は予選・決勝とも受付横の配布係より手渡しする。)

② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(2)の②に準ずる。

③ オーダー用紙提出後の選手変更は認めない。ただし、怪我等の急なアクシデントにより、メンバーの出場ができない場合のみ、本部が指定した医務員の判断によって、変更が認められることがある。

(6) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに京都府高体連陸上競技専門部HP上にある「欠場届」に必要事項を記入し、競技者係に提出すること。

3. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

① トラック競技のレーン順、およびフィールド競技の試技順は、全てプログラム記載のとおりとする。準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、アスリートランキング.comで発表する。

② トラック競技において、次のラウンドへの出場者を決める時、その最下位で同タイム者(1/100秒)が出た場合は、写真を拡大して精査し優劣の判定をする。レーンに余裕がある場合に限り同タイム(1/1000秒単位)の選手の進出を認める。レーンに余裕がない場合は本人または代理人による抽選を行う。ただし、800mとオープン・レーンを使用する種目は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

① スパイク及びシューズについては規定に適合すること。スパイクのピンの本数は11本以内とし、9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。

② ナンバーカードは指定された大きさとユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は、胸部または背部だけでよい。

③ 男子5000m、女子3000mはグループスタートで行う。

④ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン(曲走路)を走ること。

⑤ フィールド競技において、コーチの競技者に対する助言が競技の進行を妨げないようにするため、「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席で行うこと。

⑥ 競技区域内(招集所内含む)に携帯電話・スマートフォン・タブレット等のデバイス機器を持ち込むことはできない。また、競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は、失格の対象となる。なお、フィールド競技に出場している

競技者が、それ以前の試技の映像をコーチ席以外の場所で見ると、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げにより競技区域に持ち込むことは認めない。

- ⑦競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。
- ⑧招集所からスタート地点、跳躍場、投てき場へ行く場合、競技者係の指示に従うこと。
- ⑨三段跳の踏切板は男子 11m00 cm、女子 9m00cm に設置する。なお、トップ 8 以降の試技については選手の実力に応じて変更することがある。
- ⑩フィールド種目の手拍子については決勝のトップ 8 以降のみ競技に支障のない範囲で可とする。（高さ種目については概ね 8 名とする）
- ⑪リレー競技に出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。（形状を統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること。）
- ⑫競技運営上の理由により、以下の種目において下記のタイムを超えて残している場合は、フィニッシュ地点で競技を中止させる。
 男子 5000m ; 19 分 00 秒、男子 3000mSC;13 分 00 秒、女子 3000m ; 13 分 00 秒
 男子 5000m 競歩 ; 35 分 00 秒、女子 5000m 競歩;37 分 00 秒
- ⑬5000m、3000m、5000mW において、状況に応じてバックストレートで給水ポイントを設置することがある。

(3) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。

男子走高跳	練習	150 170 190	
	競技	155 160 165 170 175 180 183 186	以後3cmずつ上げる
女子走高跳	練習	120 145 160	
	競技	125 130 135 140 145 148 151 154	以後3cmずつ上げる
男子棒高跳	練習	240 360 ()	選手の実力に応じて追加することがある
	競技	240 260 280 300 310 320 330 340 ……460 465	以後5cmずつ上げる
女子棒高跳	練習	160 260 ()	選手の実力に応じて追加することがある
	競技	160 180 200 220 230 240 250 260 ……330 335	以後5cmずつ上げる

*同記録による 1 位決定と近畿大会出場権決定のバーの上げ下げは、走高跳 2 cm、棒高跳 5 cm とする。

*開始するバーの高さは荒天時などの場合に限り、危険回避のために審判長判断で変更することがある。

(4) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上*	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技**	2分	3分	2分

* 4人以上または各競技者の最初の試技

**残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

4. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己のものを使用してもよい。なお、やりの検査は競技開始 9 0

分～60分前の時間帯に、100m スタート側の倉庫前で行う。以前の検査シールは剥がして持参すること。（日本陸連の検定シールは剥がさない。

5. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟規則により、所定の手続きをとるものとする。

6. 表彰について

- (1) 各種目1～3位の選手（リレーは6位まで）を表彰する。
- (2) 種目得点は、1位8点、2位7点、……以下8位1点とする。
- (3) 男女総合、各学年男女別優勝校を表彰する。

7. その他

- (1) 顧問及び引率責任者(代理)の出席（審判）なき場合は、選手の出場は認めない。なお、競技役員受付を必ず通過すること。
- (2) ウォーミングアップは、補助競技場(サブ・グラウンド)で行うこと。ただし、投てきの練習は、招集完了後、役員の指示により競技場内で行うので補助競技場での投てき練習は一切行わないこと。
- (3) 応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わないこと。また、集団での連呼応援は自粛すること。（特にトラック競技のスタート直前は注意すること。）また、円滑な競技会運営のため、コーチ席並びに報道エリアを、観戦や応援のためのスペースよりも優先して設置する。
- (4) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (5) 競技中に起こった怪我については、本部の医務室で応急処置のみ行う。
- (6) スタンド等で使用した場所は、各校で責任をもって清掃し、ゴミはすべて持ち帰ること。
- (7) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、必ずスタンド下の通路や競技場の外側を使用すること。通行禁止や使用禁止の表示がある場合は、厳守すること。
- (8) 本部席前は通行を禁止する。許可された者（補助員）以外は通らないこと。また、審判長、総務、アナウンサー前での助言は競技会運営に支障を来すため行わないこと。
- (9) メインスタンドのロイヤルボックス席には立ち入らないこと。
- (10) 競技場内の各校待機場所はスタンド（メイン、バック、サイド）のみとする。ただし、テントの設置・旗・横断幕の貼り付けについては中段通路より上とする。
- (11) スタンド等における各校待機場所やロープ等がトイレ前や通路、階段、バリアフリー経路の出入口等をふさぐことのないようにすること。
- (12) 公園内・サブトラックでは、メディシンボール、チューブ等の使用を禁止する。トラック上に競技場備え付けの用具以外のものを設置してはいけない。
- (13) 盗撮行為等を防止するために、各校に撮影許可証が配布されているので、関係者の撮影の際には必ず撮影許可書を着けること。
- (14) 競技場等の入場については、各校の待機場所確保のため、一般開放をする前に各校の代表者を優先して入場させるので、早朝からの場所取りはしないこと。（入場時刻については各校へ別途連絡）
- (15) 忘れ物等の大会中に拾得した物は10日を目途に処分するので、紛失したものがあれば必ず要項記載の大会担当者まで連絡すること。
- (16) 本大会3位までの入賞者（リレーは6位まで）は、近畿大会の出場参加資格を得る。近畿大会出場者の決定については、全国大会出場者決定の申し合わせに準ずる。
- (17) 近畿大会の申し込みに関する一切の書類は、第3日目の大会終了後に行うので、各学校代表者は必ず出席すること。